

2018 年卒
Vol.4

3月1日時点の就職活動調査

キャリアス就活 2018 学生モニター調査結果 (2017年3月発行)

2018年卒者の採用広報が3月1日に解禁され、多くの学生が就職活動を本格的にスタートした。解禁直後のキャリアス就活学生モニターの就職活動状況や意識について調査を行ったところ、前年同期調査に比べ全体的に動きが早まっていることがわかった。

1. エントリー状況

- 一人あたりのエントリー社数の平均は26.3社。前年調査(25.0社)より1.3社増加
- 今後の予定社数の平均は16.4社。前年調査(22.2社)より5.8社少ない

2. セミナー・会社説明会への参加状況

- 一人あたりの平均参加社数は16.6社。うち合同企業説明会での参加が8.9社
- 参加したい企業セミナーは「社員と直に話せる機会が設けられている」77.7%

3. 選考試験の受験状況

- エントリーシート提出者は37.9%。筆記試験受験者41.3%。面接試験受験者33.9%

4. 3月1日現在の内定状況

- 内定率は6.0%。前年同期(5.0%)より1.0ポイント増
- 内定企業の6割(60.9%)はインターンシップ参加企業

5. 現時点の志望業界

- 志望業界1位「銀行」、2位「水産・食品」、3位「素材・化学」

6. 理系学生の就職意識

- 「自由応募のみで活動」が過半数(55.1%)、「推薦のみで活動」は2.7%

7. 今後の就職活動の方針と終了希望時期

- 「気になる企業にはとりにあわずエントリー」75.0%、「個別企業のセミナーにできるだけ参加」75.0%
- 就職活動を終えたい時期は、6月上旬(25.6%)に集中。短期決戦の構えが鮮明

8. 企業研究を行う上で知りたい情報

- トップ3は、「実際の仕事内容」「社風」「他社と比べた強み・弱み」

9. 就職活動で今困っていること(コメント)

10. 就職活動で話題になっていることや真偽が知りたい噂(コメント)

調査概要

- 調査対象 : 2018年3月に卒業予定の大学3年生(理系は大学院修士課程1年生含む)
回答者数 : 1,423人(文系男子500人、文系女子421人、理系男子339人、理系女子163人)
調査方法 : インターネット調査法
調査期間 : 2017年3月1日~6日
サンプリング : キャリタス就活2018学生モニター(2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」)

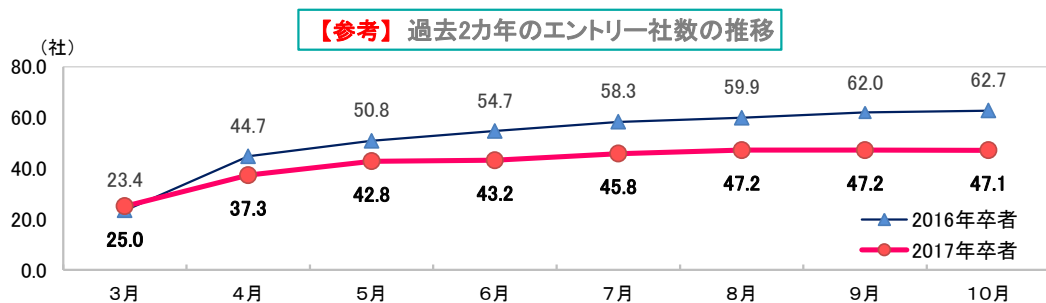
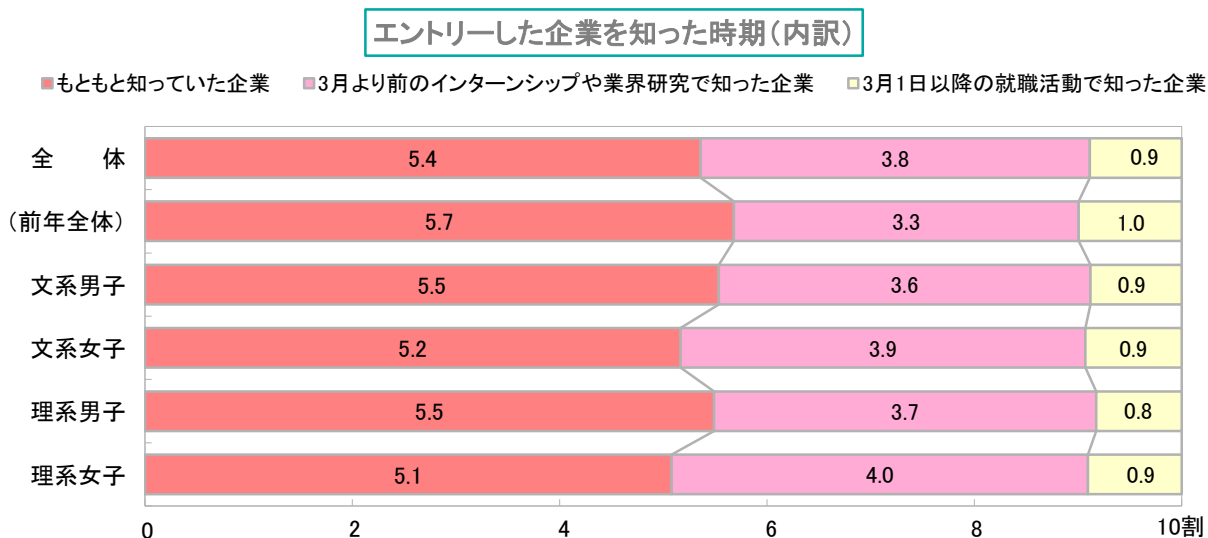
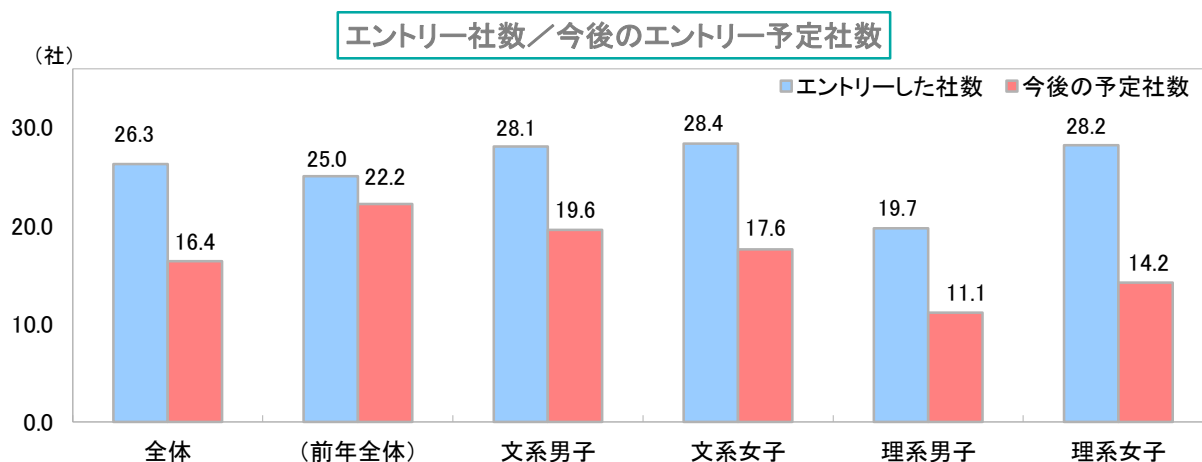
◆本資料に関するお問い合わせ先 : 03-4316-5505 / 株式会社ディスコ キャリタスリサーチ

1. エントリー状況

2018年卒者の就職活動が、3月1日より本格的にスタートした。まず全体的な活動量を確認しよう。

一人あたりのエントリー社数の平均は26.3社。前年同期調査(25.0社)を1.3社上回り、順調な滑り出しに見える。しかし、今後のエントリー予定社数を見ると、平均16.4社と、前年同期調査(22.2社)を5.8社下回る。エントリーのタイミングが前倒しになっているだけで、今後の伸びは鈍いと予想される。前年(2017年卒者)の就職戦線では、一人あたりのエントリー社数が激減したことが記憶に新しいが、今年の就活生の最終的なエントリー社数はさらに減る可能性が出てきた。

現段階でエントリーした企業は「もともと知っていた企業」が過半数を占めるが(5.4割)、前年に比べ割合は下がり、代わりに「3月より前のインターンシップや業界・企業研究などで知った企業」が割合を増しているのが目立つ(3.3割→3.8割)。企業側が就活解禁前のプレ期にインターンシップを実施したり、企業広報を積極的に行ったりした成果と言えそうだ。



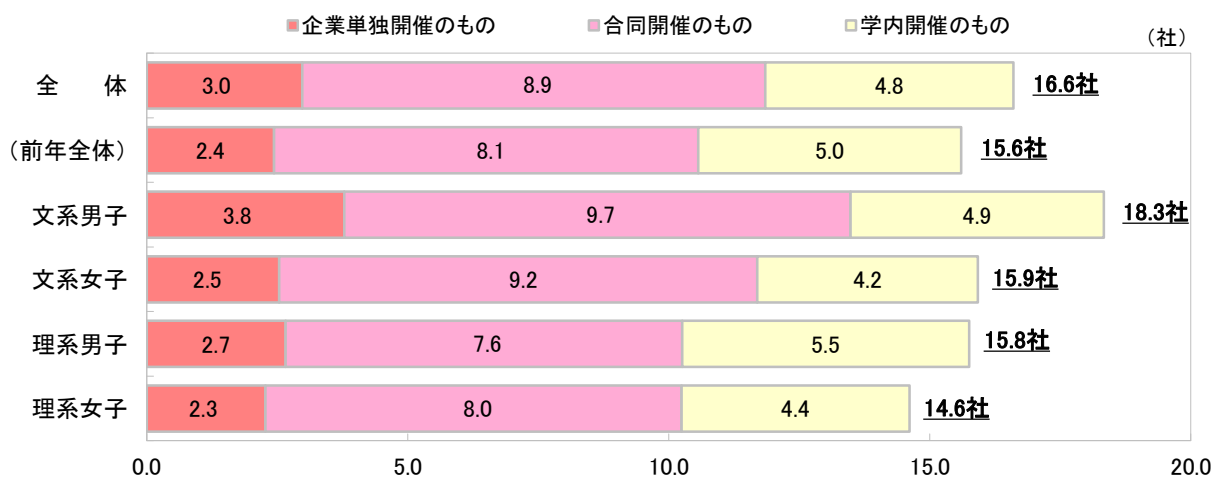
2. セミナー・会社説明会への参加状況

セミナー・会社説明会の平均参加社数は16.6社で、前年同期(15.6社)より1社多い。合同開催のものが8.9社で半数強を占め、就職活動の序盤は合同セミナーを中心に活動する学生が多いことがうかがえる。合同セミナーへの来場回数の平均は2.2回で、前年同期(2.0回)を上回る。

企業単独セミナーはこれから参加のピークを迎えるが、どのようなセミナーに参加したいのかを尋ねてみた。最も多いのは「社員と直に話せる機会が設けられている」で、77.7%。次いで「業界について詳しい説明がある」56.9%、「部門・職種別の説明が詳細に聞ける」54.2%と続く。社員から社風を感じ取り、業界研究や具体的な仕事内容を聞く場としてセミナーを活用したいとの意向がうかがえる。

限られた期間で効率よく企業研究を進めるため、WEBセミナーを活用する学生も多い。平均視聴社数は、ライブ中継が3.2社、オンデマンド(録画)放送が2.3社で、前年よりも増加傾向。

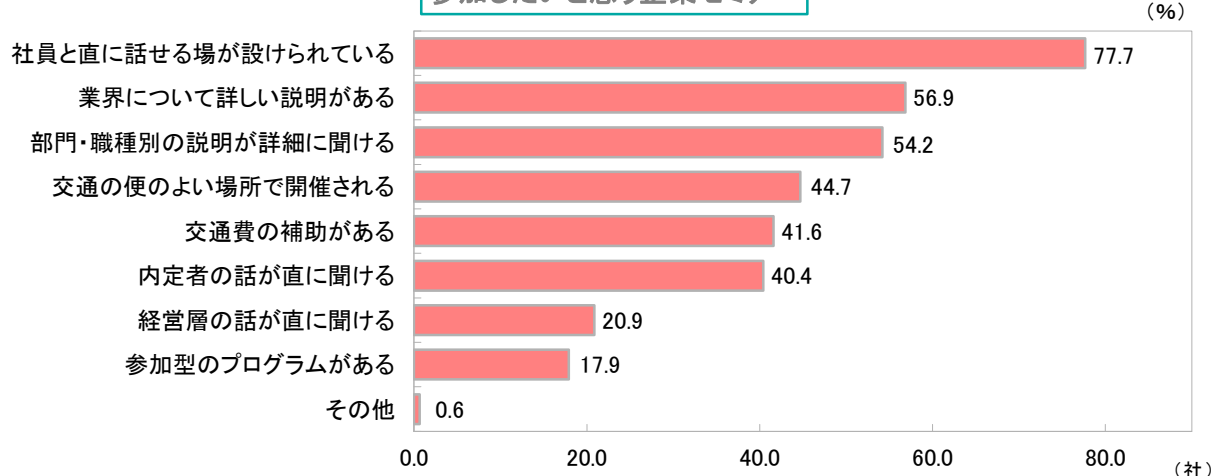
セミナー・会社説明会参加社数と内訳



合同開催・学内開催参加回数

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
合同開催セミナーへの来場	2.2	2.0	2.4	2.4	1.9	1.8
学内開催セミナーへの来場	1.8	1.9	2.0	1.7	2.0	1.5

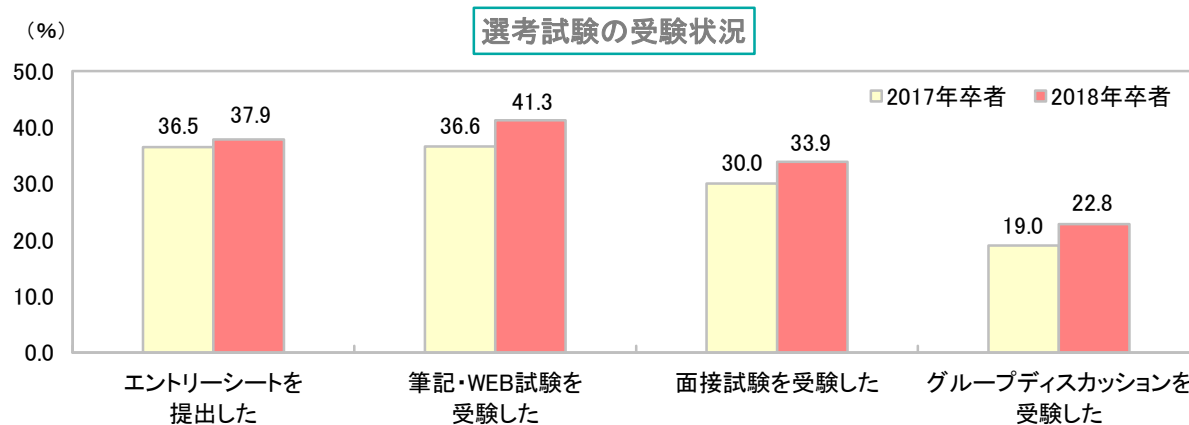
参加したいと思う企業セミナー



	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
WEBセミナー視聴	5.5	5.0	5.3	6.3	5.1	5.0
ライブ中継	3.2	2.6	2.9	3.9	2.8	3.0
オンデマンド(録画)	2.3	2.4	2.4	2.4	2.4	2.1

3. 選考試験の受験状況

エントリーシートを提出した学生は全体の37.9%。今年も3人に1人以上が、すでに提出経験をもつ。提出社数の平均は3.8社で、前年同期(3.6社)をやや上回る。筆記・WEB試験を受験した学生は4割を超え(41.3%)、面接試験受験者が33.9%に上るなど、いずれも前年同期を上回る経験率だ。



選考試験の受験社数

	(社)					
	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリーシート	3.8	3.6	3.5	3.9	3.8	4.4
筆記・WEB試験	2.5	2.4	3.0	2.2	2.2	2.3
面接試験	2.4	2.1	2.6	2.2	2.3	1.9
グループディスカッション	2.0	2.1	2.2	1.7	2.2	1.8

4. 3月1日現在の内定状況

ここまで、早期から活発に活動している様子を確認してきたが、内定取得についても同様の傾向が見られる。調査時点ですでに内定を手にしていう学生は全体の6.0%。前年同期(5.0%)を1ポイント上回る。内定社数の平均は1.3社。就職戦線はまだ始まったばかりではあるが、内定取得者の2割(20.9%)は就職活動を終了したと回答した。

3月1日現在の内定状況

*「内定」には、内々定を含む

		(%)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		6.0 (5.0)	6.8 (6.9)	4.5 (5.8)	5.9 (2.8)	8.0 (2.2)
内定なし		94.0 (95.0)	93.2 (93.1)	95.5 (94.2)	94.1 (97.2)	92.0 (97.8)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	20.9 (9.0)	8.8 (13.3)	31.6 (0.0)	30.0 (25.0)	23.1 (0.0)
	活動は終了したが複数内定保持	0.0 (1.5)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (12.5)	0.0 (0.0)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)
	就職活動継続	79.1 (89.6)	91.2 (86.7)	68.4 (100.0)	70.0 (62.5)	76.9 (100.0)
		(社)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		1.3 (1.2)	1.4 (1.2)	1.4 (1.1)	1.1 (1.3)	1.2 (1.5)

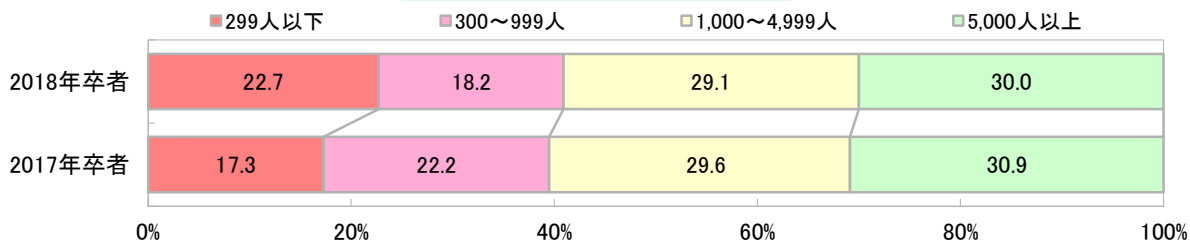
少ないサンプルではあるが、内定を得た業界は「調査・コンサルタント」「情報処理・ソフトウェア」に集中しており、外資系コンサルティングファームやIT業界などが早くから動いていた様子がわかる。

内定を得た企業の規模の比率を前年同期調査と比較してみたところ、今年も従業員「1,000人～4,999人」と「5,000人以上」が3割前後でほぼ同率で、就職戦線の序盤から大手企業が出している様子が見て取れる。また、内定を得た企業のインターン参加経験もあわせて尋ね、同様に比率を出してみたところ、内定企業の6割(60.9%)がインターンシップに参加した企業だった。

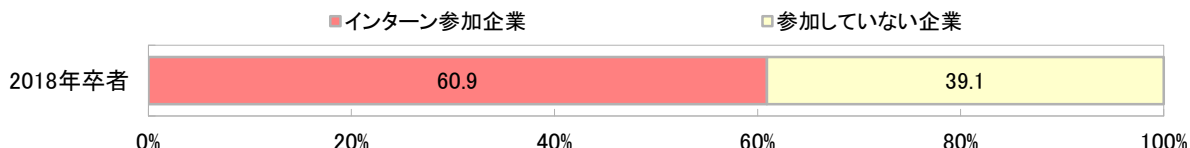
内定を得た業界 (上位3業界)

全 体		文 系		理 系	
1	調査・コンサルタント	27.9	調査・コンサルタント	32.1	調査・コンサルタント
2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	15.1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	15.1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト
3	情報・インターネットサービス	9.3	情報・インターネットサービス	11.3	人材紹介・人材派遣
	専門店	9.3	専門店	11.3	

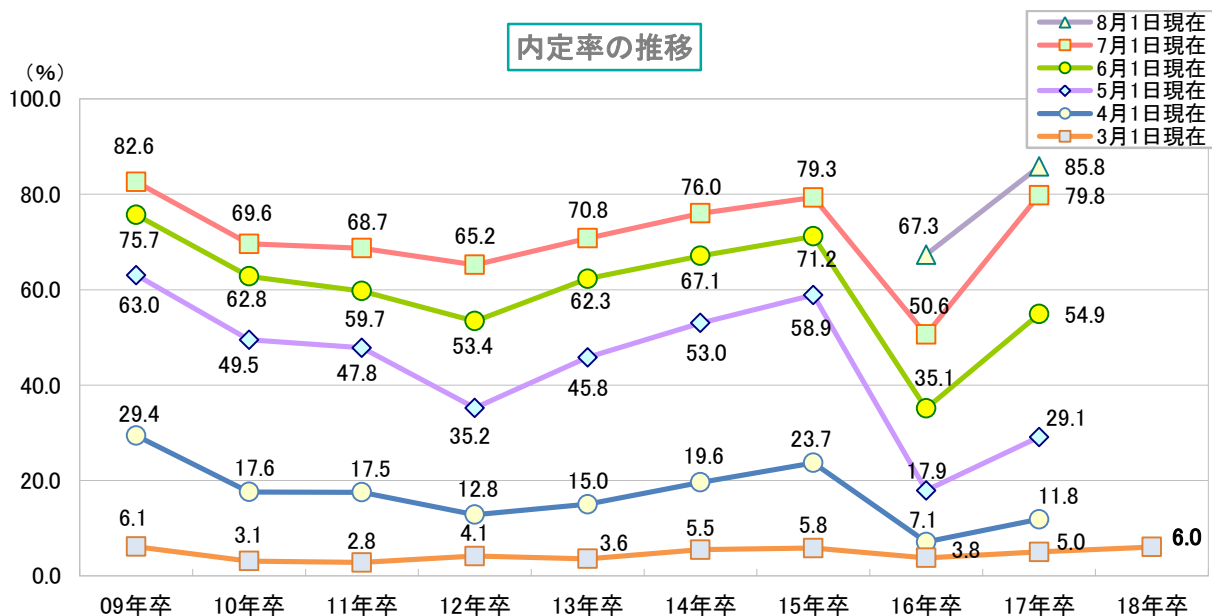
内定を得た企業の従業員規模



内定を得た企業のインターン参加有無



内定率の推移



※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17卒は6月

5. 現時点の志望業界

3月1日の時点で志望業界を「決めている」学生は92.7%で、今年も9割以上が就活解禁時点で志望業界を決めていたことがわかった。

「決めている」と回答した人に具体的な志望業界を40業界の中から5つまで選んでもらったところ、「銀行」が20.5%で最も多く、以下「水産・食品」17.4%、「素材・化学」16.1%と続く。上位3業界の順位は前年と変化ないが、前年10位だった「情報処理・ソフトウェア」と「情報・インターネットサービス」が、それぞれ4位・5位へと順位を上げているのが目立つ。両業界とも現時点での内定業界の上位であり、そうした選考時期の早さも人気を集める要因の1つと言えそうだ。

現時点の志望順位を文理男女別に見ると、文系は男女とも「銀行」が首位。理系は男子が「電子・電機」が最も多く、女子は「医薬品・医療関連・化粧品」と「水産・食品」に集中している。

志望業界の決定状況

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
決めている	92.7	93.2	90.4	93.6	93.5	95.7
決めていない	7.3	6.8	9.6	6.4	6.5	4.3

志望業界 (上位20業界)

全 体		文系男子		文系女子		理系男子		理系女子	
1	銀行① 20.5	銀行 31.0	銀行 25.1	電子・電機 25.2	医薬品・医療関連・化粧品 46.2				
2	水産・食品② 17.4	商社(総合) 19.0	マスコミ 20.6	素材・化学 24.6	水産・食品 42.9				
3	素材・化学③ 16.1	保険 17.9	水産・食品 16.2	自動車・輸送用機器 21.5	素材・化学 32.7				
4	医薬品・医療関連・化粧品④ 14.8	建設・住宅・不動産 16.6	保険 16.2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 21.1	官公庁・団体 16.0				
5	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト⑩ 14.6	調査・コンサルタント 15.9	建設・住宅・不動産 15.2	精密機器・医療用機器 19.2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 14.1				
6	情報・インターネットサービス⑩ 13.9	運輸・倉庫 15.7	運輸・倉庫 14.7	機械・プラントエンジニアリング 18.9	情報・インターネットサービス 13.5				
	建設・住宅・不動産 13.9	情報・インターネットサービス 14.6	商社(専門) 14.5	情報・インターネットサービス 18.6	建設・住宅・不動産 12.2				
8	マスコミ⑤ 13.0	商社(専門) 14.2	官公庁・団体 13.5	医薬品・医療関連・化粧品 15.1	商社(専門) 11.5				
9	官公庁・団体⑦ 12.9	マスコミ 13.9	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 12.4	エネルギー 13.9	商社(総合) 9.0				
10	商社(総合)⑨ 12.7	官公庁・団体 13.5	ホテル・旅行 12.2	水産・食品 13.9	電子・電機 9.0				
	調査・コンサルタント⑩ 12.7	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 12.2	商社(総合) 12.2	調査・コンサルタント 11.7	農業・林業・鉱業 9.0				
12	運輸・倉庫⑥ 12.2	水産・食品 12.2	信用金庫・労働金庫・信用組合 11.7	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 11.0	精密機器・医療用機器 8.3				
13	電子・電機⑦ 12.1	証券・投信・投資顧問 11.7	医薬品・医療関連・化粧品 11.4	官公庁・団体 9.8	調査・コンサルタント 8.3				
	保険⑩ 12.1	エネルギー 11.5	調査・コンサルタント 11.4	建設・住宅・不動産 9.5	印刷・パッケージ 7.1				
15	自動車・輸送用機器 11.7	素材・化学 10.8	情報・インターネットサービス 9.4	通信関連 8.8	機械・プラントエンジニアリング 7.1				
16	商社(専門) 11.4	自動車・輸送用機器 10.4	人材紹介・人材派遣 8.9	運輸・倉庫 8.5	OA機器・家具・スポーツ・玩具他 6.4				
17	エネルギー 9.8	信用金庫・労働金庫・信用組合 8.8	自動車・輸送用機器 8.6	銀行 7.6	エネルギー 6.4				
18	精密機器・医療用機器 9.2	電子・電機 8.2	素材・化学 8.6	鉄鋼・非鉄・金属製品 6.6	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 6.4				
19	機械・プラントエンジニアリング 8.9	ホテル・旅行 7.3	エンターテインメント 7.9	商社(総合) 6.3	マスコミ 6.4				
20	信用金庫・労働金庫・信用組合 6.7	通信関連 7.3	印刷・パッケージ 7.9	マスコミ 5.7	その他サービス 5.1				

※○の中の数字は前年同調査の全体順位10位以内

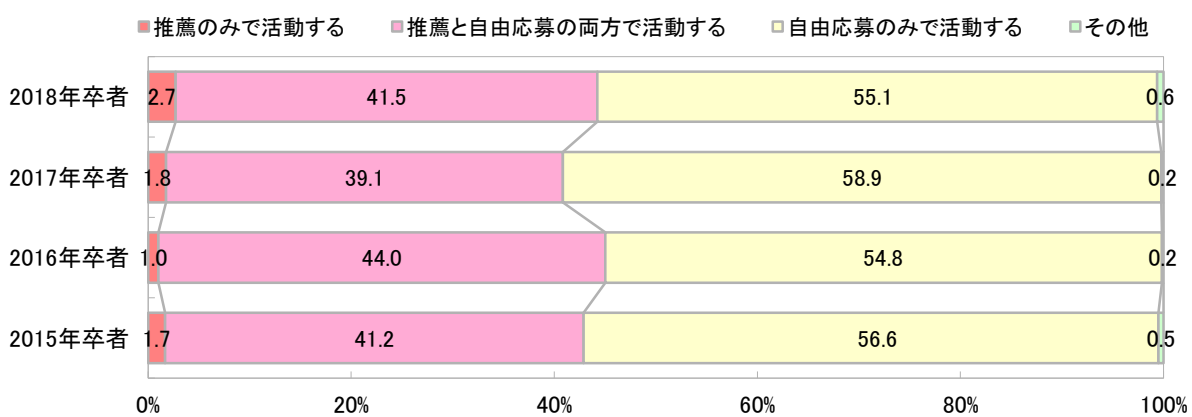
6. 理系学生の就職意識

理系学生に対し、就職活動の進め方について「推薦か自由応募か」という観点で尋ねた。「推薦のみで活動する」という学生が2.7%と前年調査(1.8%)より増えたが、「自由応募のみで活動する」(55.1%)という回答が最も多く、前年に引き続き過半数に上った。

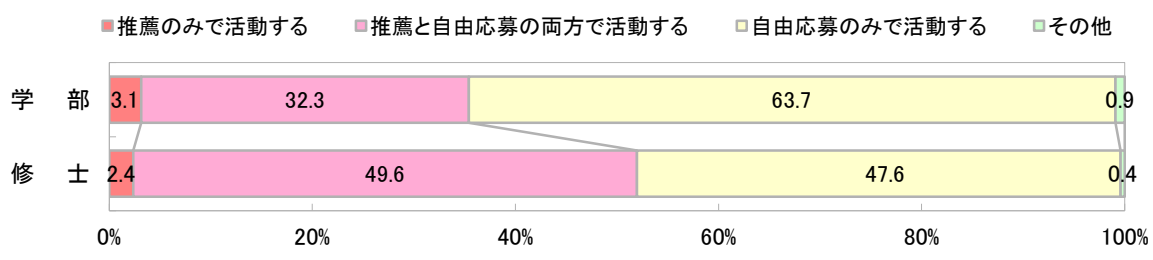
併願を含め自由応募で活動すると回答した学生にその理由を尋ねたところ、最も多いのは「希望の企業からの推薦枠がない」(29.5%)だが、ここ4年では減少傾向が見られる。「推薦で受けても内定が取れるとは限らないから」(20.2%)は、前年(16.7%)より3.5ポイント増加しており、推薦制度の「不確かさ」に対する学生の本音が垣間見える。

なお、学部生に比べ企業からの推薦依頼の多い修士学生では、推薦利用予定者は52.0%に上る。

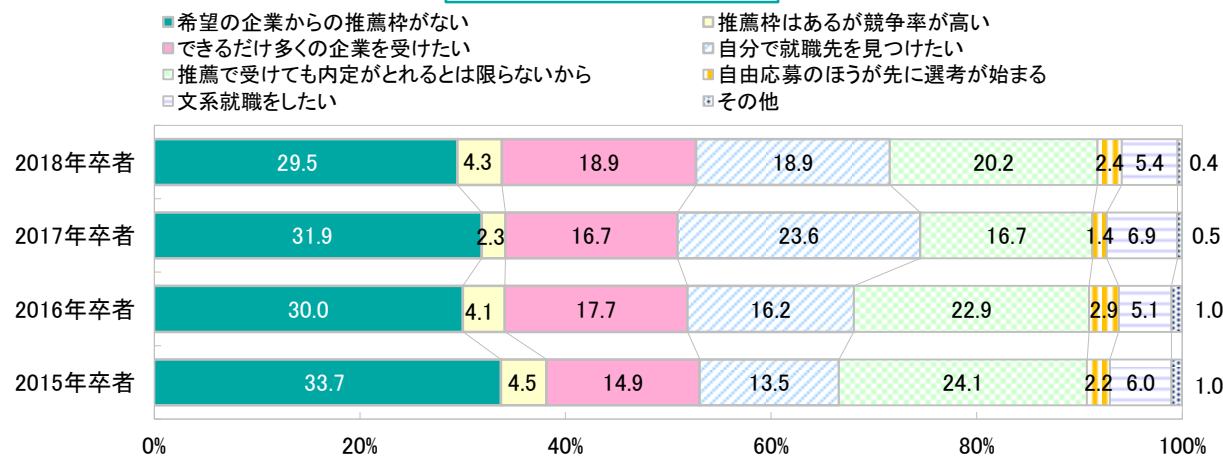
理系学生の就職活動の進め方



理系学生の就職活動の進め方(学部/修士)



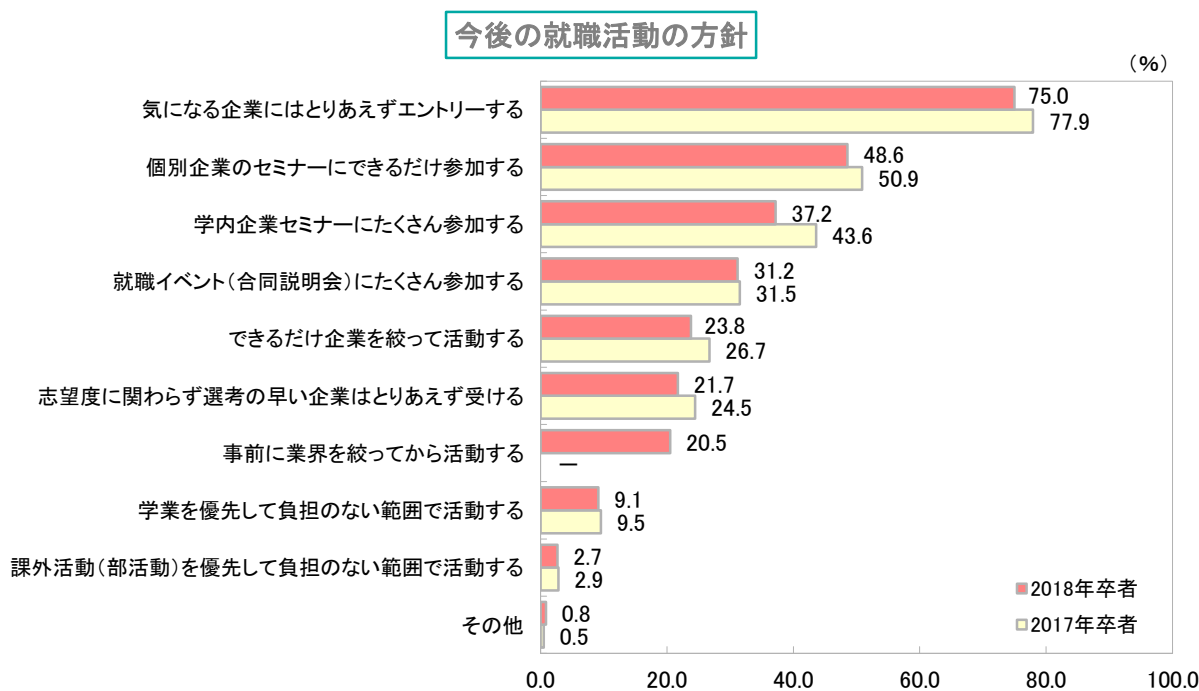
自由応募で活動する理由



7. 今後の就職活動の方針と終了希望時期

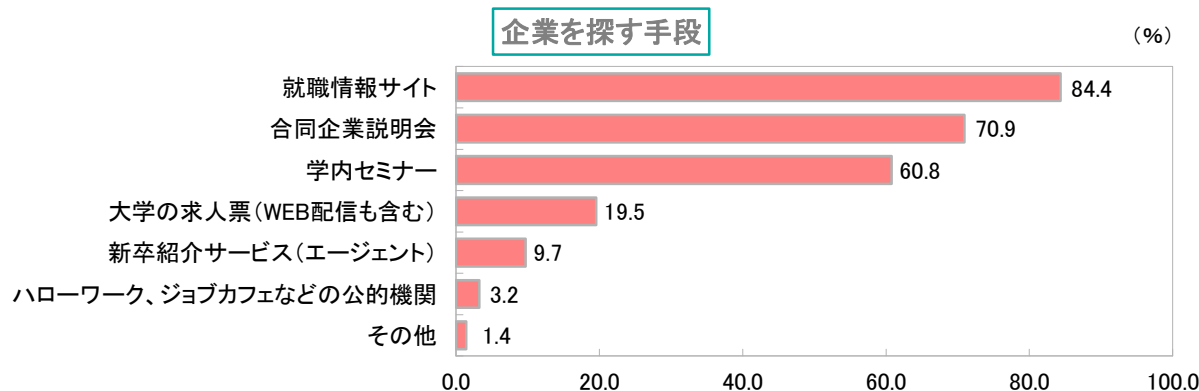
今後の就職活動の方針を尋ねた。最も多くが選んだのは、「気になる企業にはとりあえずエントリーする」で7割を超えている(75.0%)。次いで「個別企業のセミナーにできるだけ参加する」(48.6%)、「学内企業セミナーにたくさん参加する」(37.2%)と続く。今後のエントリー予定社数は平均16.4社だが(2ページ)、就職活動はまだ始まったばかりであり、志望先を絞って活動するよりも、幅広く情報収集して興味をもてる企業を探したいと考えている学生が大半だ。

実際、98.4%が「エントリーする企業を探している」と回答している。企業を探す手段を尋ねると、「就職情報サイト」(84.4%)が最も多いが、「合同企業説明会」が7割強(70.9%)、「学内セミナー」は6割強(60.8%)に上っている。WEBだけでなく、企業と直に接触できる機会も利用して、自分に合う企業を探したいと考えているのだろう。

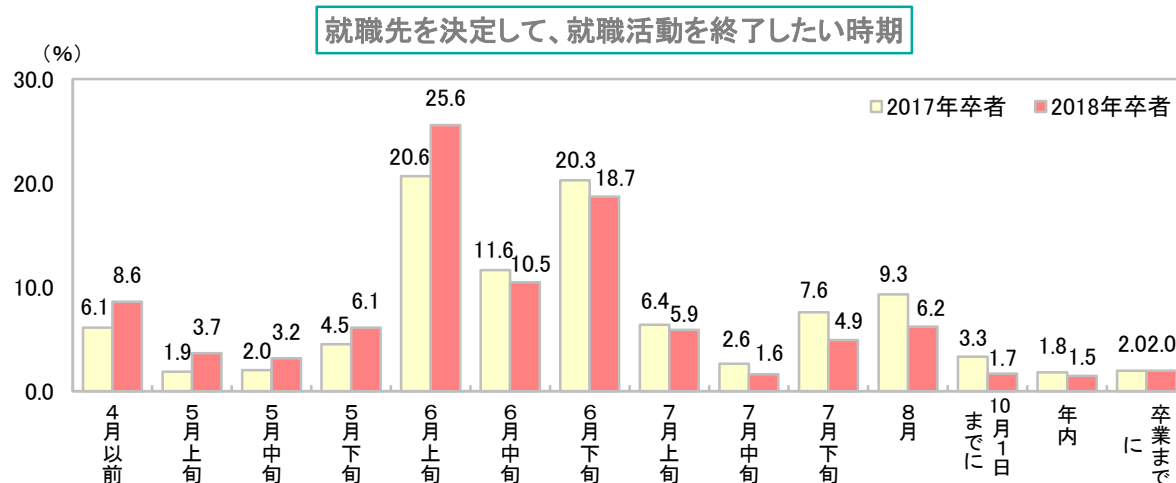


エントリーする企業を探しているか否か

	全体 (%)	文系男子 (%)	文系女子 (%)	理系男子 (%)	理系女子 (%)
エントリーする企業を探している	98.4	98.9	99.2	96.3	98.5
エントリーする企業は探していない	1.6	1.1	0.8	3.7	1.5

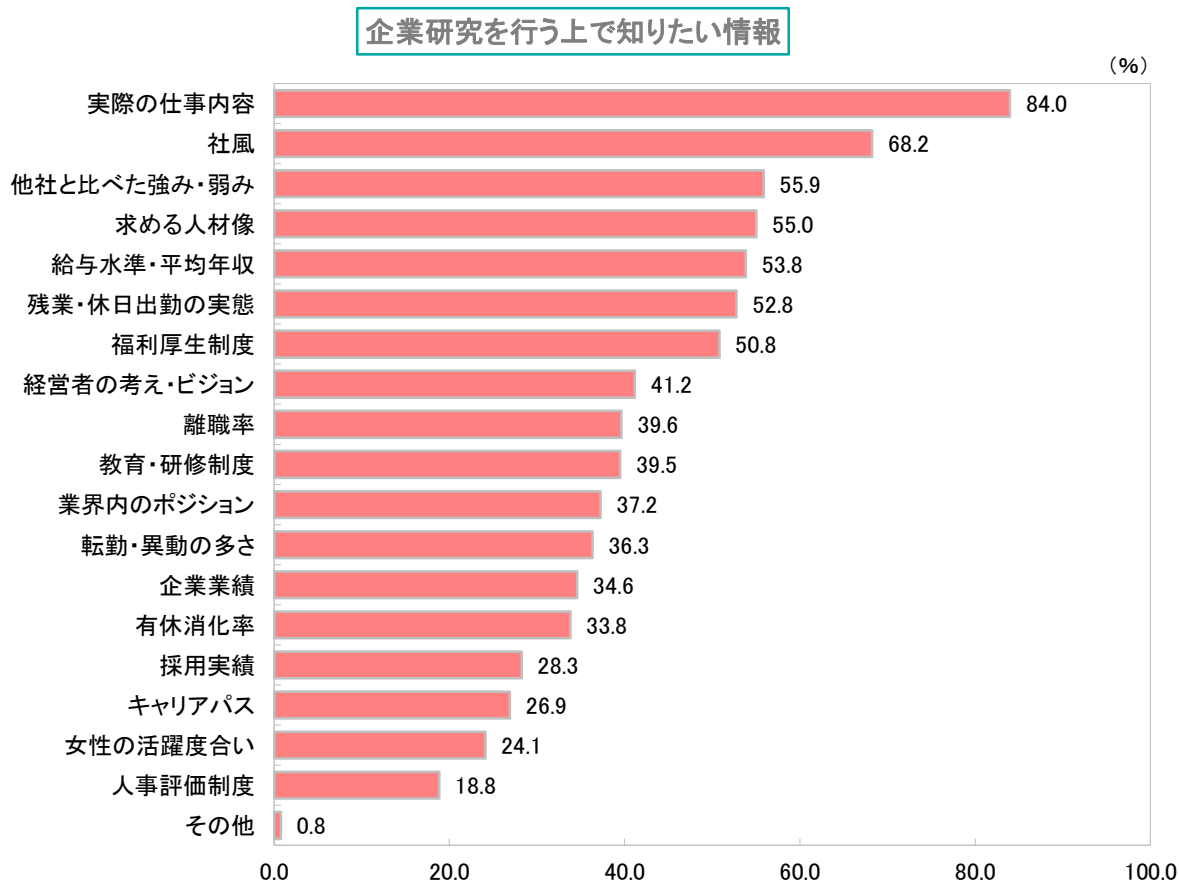


就職先を決定して就職活動を終了したいと思う時期は、「6月上旬」に集中し(25.6%)、前年調査(20.6%)より5ポイント増加した。また、6月の選考解禁を待たずに終了したいという学生は合計21.6%で、前年調査(14.5%)を大きく上回る。



8. 企業研究を行う上で知りたい情報

企業研究をする上で知りたい情報は何かを尋ねた。最もポイントを集めたのは「実際の仕事内容」で、8割以上(84.0%)が選んだ。次いで「社風」(68.2%)、「他社と比べた強み・弱み」(55.9%)などが続く。全体的に分散しており、学生が企業研究の際に必要な情報は多岐にわたる。企業には、就活生が知りたい情報をより積極的に開示することが望まれる。



9. 就職活動で今困っていること

就職活動解禁直後のこの時期、具体的にどんなことに困っているのかを尋ねた。エントリーシートや面接に対するコメントが比較的多く、選考試験対策が喫緊の課題という学生が多いようだ。

- 各社のエントリーシートの提出期限が続々と迫っているにもかかわらず、よく聞かれる質問への回答すら作成できていない。 <文系女子>
- エントリーシートを書くのはインターンシップでも経験したが、いつまで経っても慣れない。 <理系男子>
- 面接でなにをどのようにして話せばよいかわからない。 <文系男子>
- 模擬面接でも緊張して言葉が出なくなってしまった。本番はもっと緊張して何も答えられない気がする。 <理系女子>
- 自分が行きたいと考えている企業の選考にグループディスカッションが多く、対策があまりできていないため不安。 <文系女子>
- 合同企業説明会に参加する中で、各個別のセミナーや会社説明会に参加しなくてはならないし、個別に志望動機を仕上げないとならないので、大変。 <文系男子>
- とりあえず説明会をたくさん予約しており、キャパオーバーにならないか心配で仕方ない。 <文系女子>
- 昨年6月からインターンシップなどを通して企業研究をしているが、先が見通せない中、どのような会社を選ぶのが良いのか自信が持てない。 <理系男子>

10. 就職活動で話題になっていることや真偽が知りたい噂

就職活動に関して、周囲で話題になっていることや、真偽が知りたい噂などを自由に書いてもらった。鋭い指摘から都市伝説レベルのものまで、様々なコメントが寄せられた。

- インターンの選考に落ちてしまうと本選考で絶対に受からないと言われている企業がある。 <文系男子>
- 会社ごとのインターン優遇の有無。情報が錯綜している。 <文系女子>
- 面接は初めの3秒で決まる、と言われることがあるが、本当にそうなのか気になる。それから、控え室での様子も見られているというが、実際はどうか。 <文系女子>
- OB訪問の回数に関わる企業がある、という噂。 <理系男子>
- 集団面接が嫌すぎると話題になっています。人が喋っているとき、うなずかなきゃいけないかどうか知りたいです。 <文系女子>
- オワハラについて。どの程度就職活動の規制を強要されるのか実態が気になります。 <文系男子>
- プレエントリーの日にちが早い遅いが選考に影響するかどうか。 <文系女子>
- 内定辞退でコーヒーをかけられて、クリーニング代を渡されたなどは本当にあるのだろうかと思いました。 <理系男子>
- グループディスカッション選考では、ひとつのグループで全員落ちるか全員受かるかのどちらかの場合が多いと聞いたことがある。 <文系男子>
- 面接の後にお礼メールを送るべきなのか否か。エントリーシートの郵送時にクリアファイルにいれるべきなのか。 <理系女子>
- 面接で、公務員試験を受ける予定があると落ちるとするのは本当なのか知りたいです。 <文系男子>
- リクラブという言葉聞いたことがある。就活中の出会いを通して実る恋愛のこころしい。友人の1人は歓迎しているようだ。他方、現在私には恋人がおらず、恋愛をしたい欲求もあるが、今年度の就活は短期間で多くのことが決まると言われているため、就活中は脇目も振らず内定獲得に邁進したい。 <文系男子>